

# 第7回設備サポートセンター一 備事業シンポジウム 事前アンケート集計結果

富山大学 研究推進機構 研究推進総合支援センター  
設備サポート・マネジメントオフィス

# アンケート概要

## 趣旨：

①設備サポートセンター整備事業において、設備共用・人材育成・学内連携・学外連携に対する取り組み（成果）と今後の発展的活動、②事業終了後の自立に対する目標と取り組み、③コロナ禍における共用に係る各校の取り組み、④継続的情報交換すべき課題と研究基盤協議会への要望、⑤共用/共同利用における取り組みと要望、⑥文部科学省への要望を照会し、シンポジウムのパネル討論会の参考資料とする。

## 対象・手法：

設備サポートセンター整備事業採択20機関に対してGoogleFormにより照会

## 回答期間：

令和2年12月21日（月）～12月27日（日）

## 回答機関：

14機関

## 回答形式：

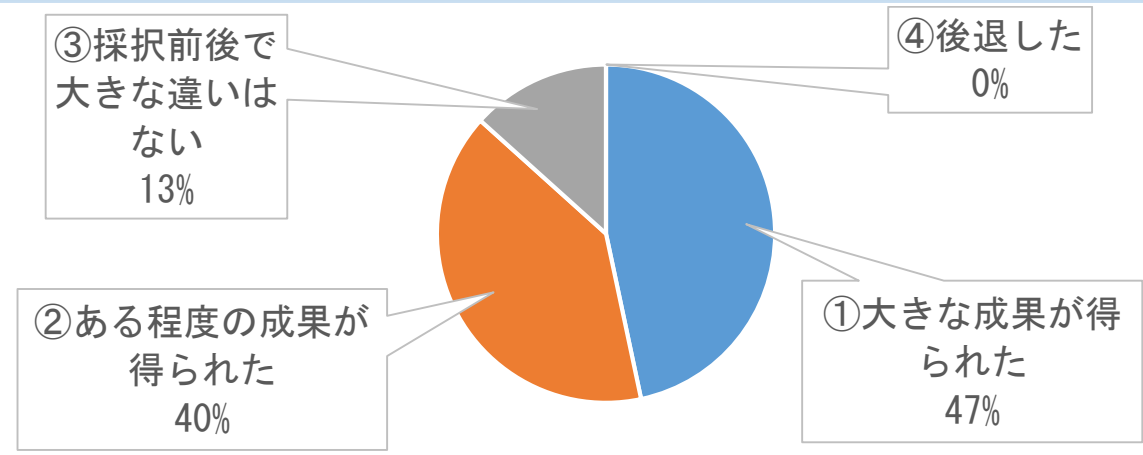
選択式および記述式

## 集計方法：

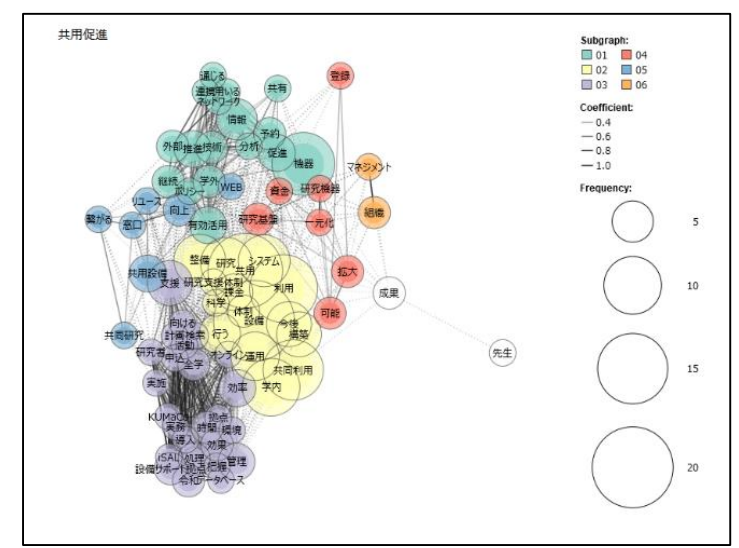
選択式設問については選択肢ごとの数と全体に占める割合を、記述式については、羅列的集計及びテキストマイニング法（使用ソフト：KH coder）によるテキスト関連の抽出を行った。

# (1) 共同利用・技術人材育成・学内の連携・学外との連携・事業終了後の自立について、その成果と今後の取組みについてお教えてください。

a 共同利用について、事業採択によって得られた成果の程度についてお教えてください。



その成果と今後の取組みについて、次の欄に自由に記載してください。



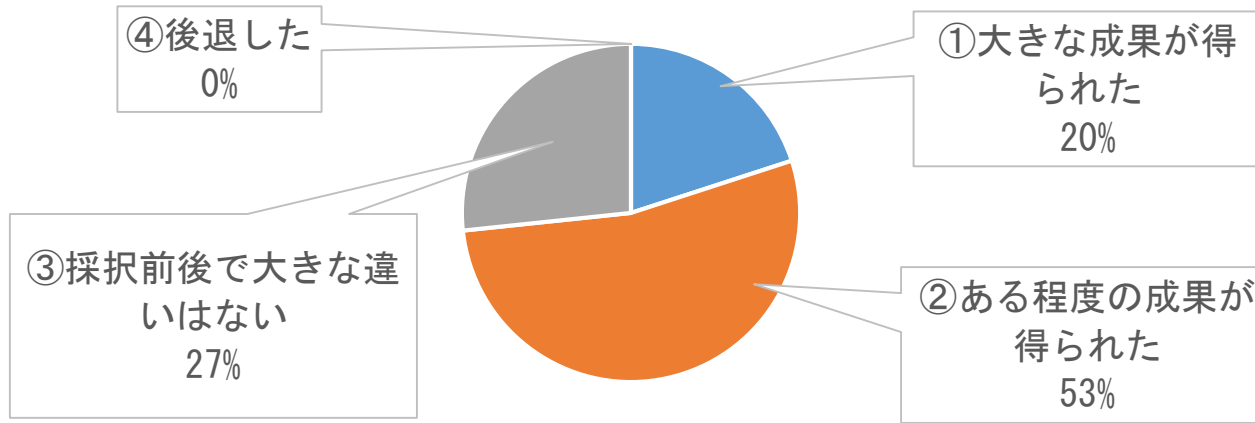
## 共起ワード

- ネットワーク、システム、情報集約、予約-課金
- ネットワーク-連携、学外-継続利用
- 設備利用/共同研究-窓口
- システム-課金-学内
- 研究基盤-一元化

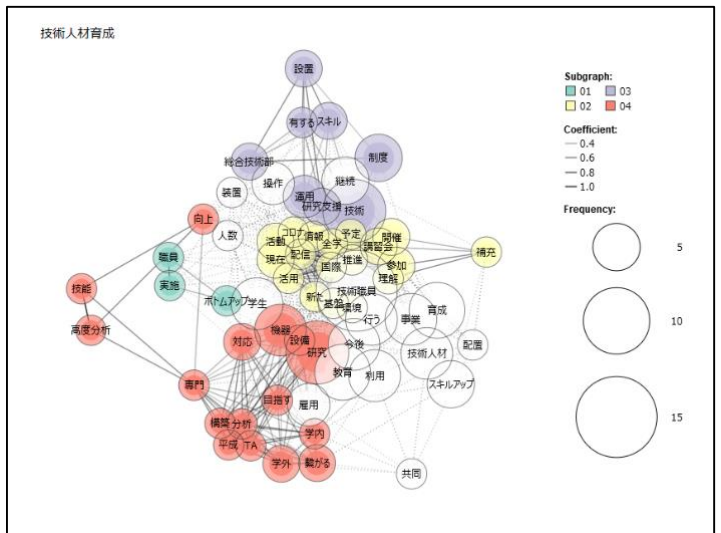
ネットワークも利用した運営体制の強化  
一元化、資金確保、外部連携などによる基盤強化

# (1) 共同利用・技術人材育成・学内の連携・学外との連携・事業終了後の自立について、その成果と今後の取組みについてお教えてください。

b 技術人材育成について、事業採択によって得られた成果の程度についてお教えてください。



その成果と今後の取組みについて、次の欄に自由に記載してください。



## 共起ワード

- **制度**：技術部設置、技術－研究支援
- **技能**：職員－ボトムアップ、技能向上、学生への波及
- **連携**：学内/外の連携、高度分析・専門技能を目指す
- **技術職員**：講習会開催、全学、国際、育成事業

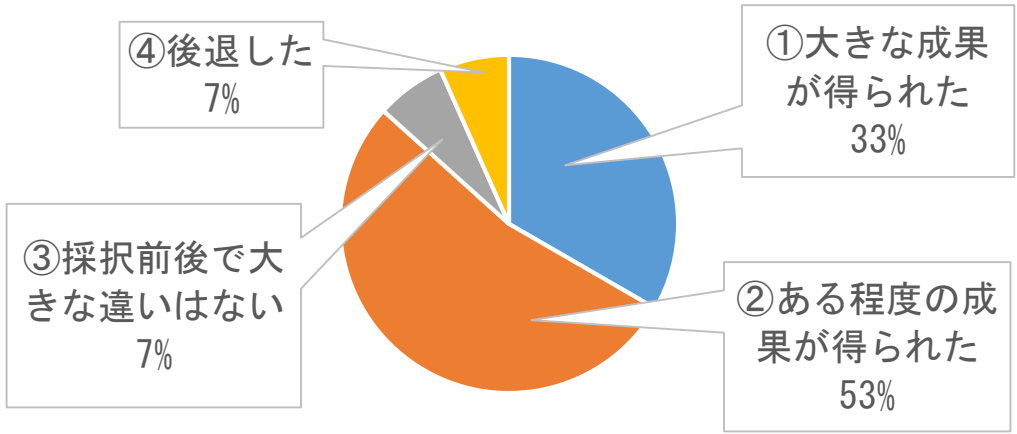
## 共起ワード→成果（①～④）との関連

- ①：制度
- ③：今後、育成、教育、事業

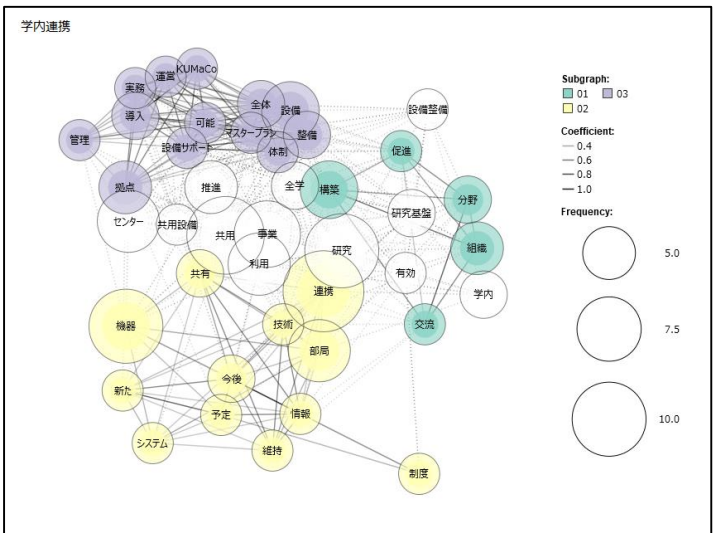
制度化、職員の技術のボトムアップと高度化、学内外での連携、などが大事

# (1) 共同利用・技術人材育成・学内の連携・学外との連携・事業終了後の自立について、その成果と今後の取組みについてお教えてください。

c 学内の連携について事業採択によって得られた成果の程度についてお教えてください。



その成果と今後の取組みについて、次の欄に自由に記載してください。



## 共起ワード

- **運営**：設備サポート、マスタープラン、整備体制
- **構築—全学**：分野/組織—交流/促進
- **制度**：部局—機器、技術、連携、情報、システム、共有

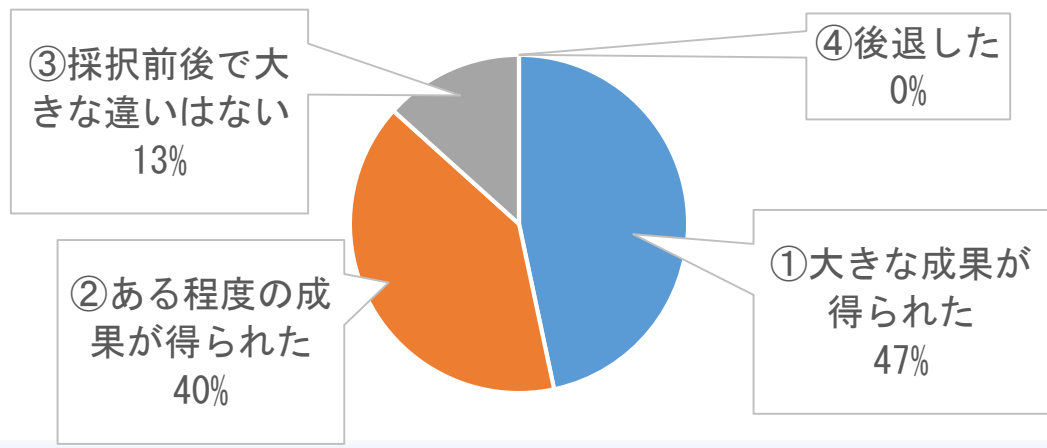
## 共起ワード→成果（①～④）との関連

- ④：設備サポート、促進、体制、組織

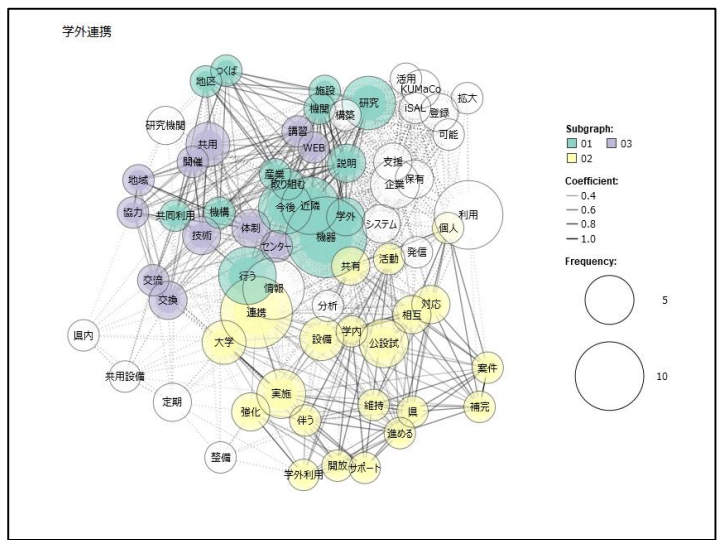
設備整備の体制、情報共有に基づく部局との技術・設備での連携、全学的な組織/分野間の交流が大事！

# (1) 共同利用・技術人材育成・学内の連携・学外との連携・事業終了後の自立について、その成果と今後の取組みについてお教えてください。

d 学外との連携について、事業採択によって得られた成果の程度についてお教えてください。



その成果と今後の取組みについて、次の欄に自由に記載してください。



## 共起ワード

- 県/公設試・大学：連携保管
- 機器－共用：開放、講習/説明、サポート、学外利用、交流
- ※直接的な企業支援・産業との連携については言及が少ない。

主として県/公設試や他大学との連携、設備の共用と人的交流が中心！機器共用での産学連携はこれから？

# (1) 共同利用・技術人材育成・学内の連携・学外との連携・事業終了後の自立について、その成果と今後の取組みについてお教えてください。

## 共同利用－技術人材育成－学内連携－学外連携での成果（①～④）の相関

	a_共同利用	b_技術人材育成	c_学内連携	d_学外連携
a_共同利用	1			
b_技術人材育成	0.251039506	1		
c_学内連携	0.175035011	0.575223742	1	
d_学外連携	0.5625	0.410791918	0.542608533	1

相関係数：  
 ・ 2つの事柄の関連性を統計的に数値化したもの  
 ・ 因果関係ではない。

$0 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 \leq r \leq 0.4$	弱い正の相関
$0.4 \leq r \leq 0.7$	正の相関
$0.7 \leq r \leq 1$	強い正の相関

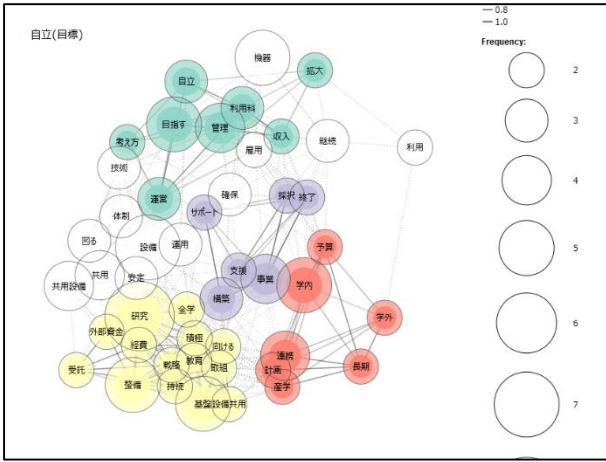
- 共用で成果を得ているところは学外連携でも成果を得ている。
- 人材育成で成果を得ているところは、学内/学外連携でも成果を得ている。
- 学内連携で成果を得ているところは、学外連携でも成果を得ている。

↳ 学外連携がうまく行っているところは、  
 共用・学内連携・人材育成  
 がうまく行っている。  
 ↳ 人材育成がうまく行っているところは、  
 学内外連携  
 がうまく行っている。

学外連携・人材育成  
 は指標になる？！  
 (因果関係はなし)

# (1) 共同利用・技術人材育成・学内の連携・学外との連携・事業終了後の自立について、その成果と今後の取組みについてお教えてください。

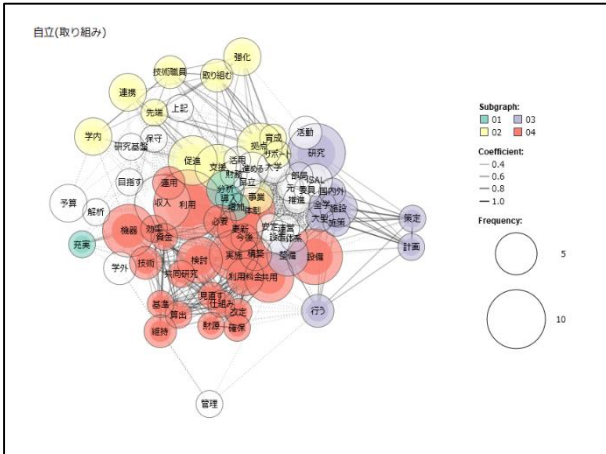
e-1 採択期間終了後にどのような形の自立的運営を目指しておられるか、自由に記載してください。



## 共起ワード

- 安定的な共用体制・運営を図る。
- 基盤設備の共用→利用料収入/管理-運営 →自立
- 外部資金-受託→整備経費
- 全学的な戦略

e-2 e-1でご記載いただいた目標に向けて、どのようななどのような取組みをしておられるか、またしようと考えておられるか、自由に記載してください。



## 共起ワード

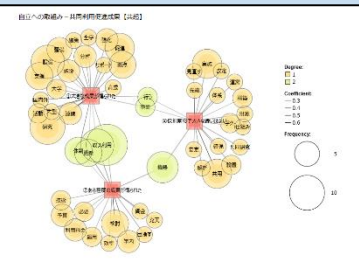
- 学内：技術職員・連携-強化、先端、支援、サポート、拠点
- 施設：国内外・全学→計画・設備整備-施策策定
- 体制-構築：機器-充実、資金/収入-利用/料金、運用/共用
- 財源：確保、仕組み、見直し、改定

人材育成、資金力・対外連携の強化、これらを支える仕組みづくり（確保と見直し）により自立を試みている！



# (1) 共同利用・技術人材育成・学内の連携・学外との連携・事業終了後の自立について、その成果と今後の取組みについてお教えてください。

e-2 e-1でご記載いただいた目標に向けて、どのようななどのような取組みをしておられるか、またしようと考えておられるか、自由に記載してください。



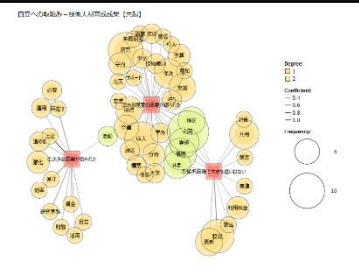
## 共同利用

### ①・②の共起テキスト

設備整備、支援、サポート強化、拠点、収入・利用—更新 ←これらに注力

### ③の共起テキスト

共用/共同研究—促進、財源、体系/運営 ←これらが課題



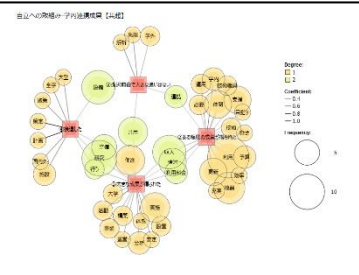
## 技術人材育成

### ①・②の共起テキスト

収入、資金、技術職員、技術、育成、体系構築 ←これらに注力

### ③の共起テキスト

料金算出、設備—更新、共用、計画、策定 ←これらが課題



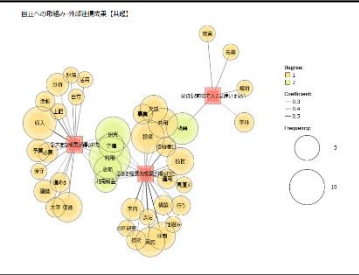
## 学内連携

### ①・②の共起テキスト

運営、安定、予算、資金、機器—充実—更新、支援、技術職員 ←これらに注力

### ③の共起テキスト

全学、施策/計画—策定、国内外 ←これらが課題



## 学外連携

### ①・②の共起テキスト

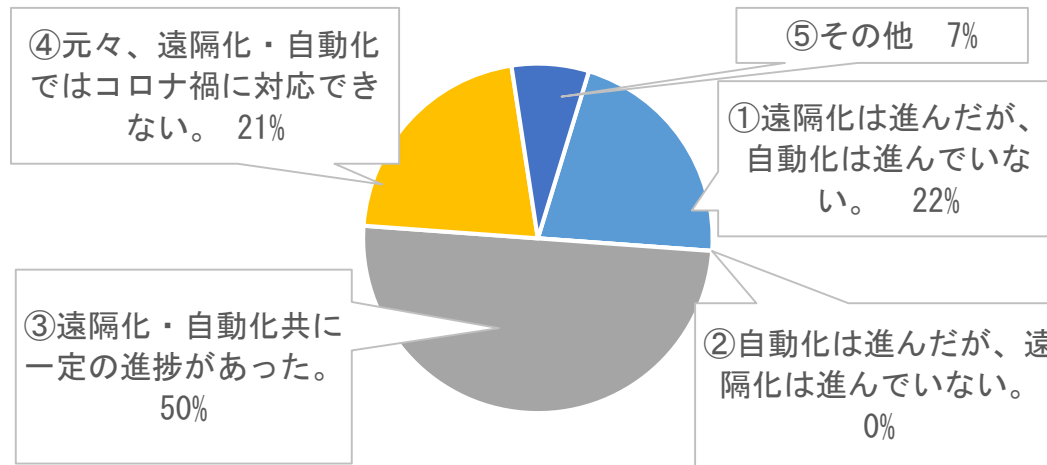
収入、予算、料金、更新/整備、大学—連携—促進、共用/共同研究—体制、技術職員  
←これらに注力

### ③の共起テキスト

先端、機器、解析、学外、充実 ←これらが課題

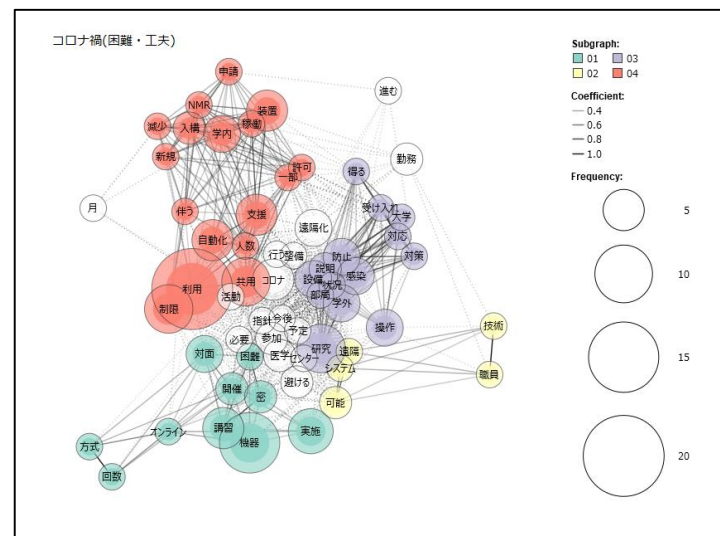
(2) 未曾有の機器である「コロナ禍」にみまわれておりますが、「コロナ禍でも安心安全に共同利用」できる方策を共有したいと考えています。各校の取り組みについて教えてください。

a 遠隔化・自動化は進みましたか？



自動化よりも遠隔化！  
各校はそこそこ対応している。

b コロナ禍で困ったことや工夫したことについて、自由に記載してください。

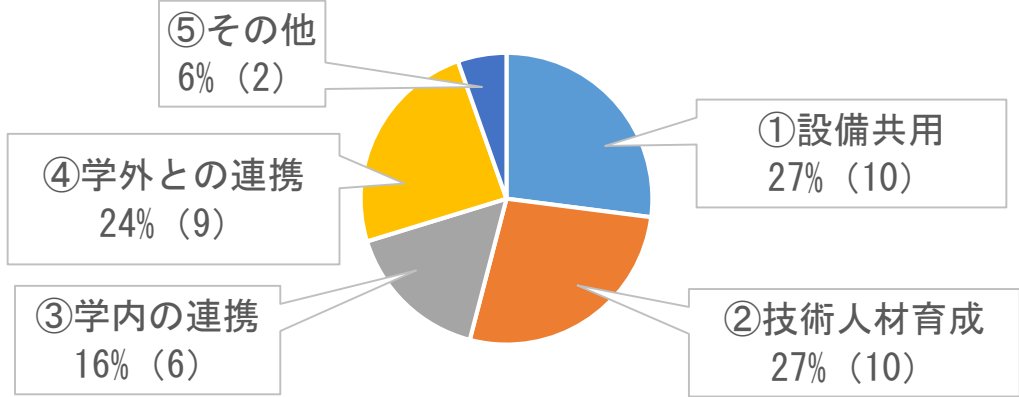


共起ワード

- **制限**：利用一人数、減少、一部、評価、共用、支援、入構、学内、装置移動
- **困難**：講習－開催－対面－密－オンライン、回数
- **学外**：感染防止、説明－操作、対応、対策－受け入れ
- **遠隔**－システム/技術職員、可能

(3) 継続的な大学間連携について 設備サポートセンター整備事業シンポジウムの開催は、本年度をもって終了します。終了後にも本事業の発展的展開や波及を目指すためにも、今後も様々な情報・課題共有が望ましいと考えられます。

a どのような事柄を情報共有したいとお考えですか？（複数回答可）



複数の大学が①～④を希望。

b 今後、研究基盤協議会が設立され、設備共用について情報共有が図られます。本協議会は、文部科学省事業採択校だけでなく、全ての国公私大、その他の研究機関を含む多様なステークホルダーが議論する新たな協議の場となります。研究基盤協議会に対して、ご要望があれば、自由に記載してください。

我が国の研究力向上のため、研究力の共用について議論させて頂きたい
高度研究機器の共用に限定し、集中的に支援した方が良いのではないか。また、対象機器の遠隔化、自動化を協力に進めるべきではないか。
各校の課題を全体で解決していくようなwin-winの関係構築、仕組みづくりの確立ができればと思います。
期待していますし、活動に貢献していくつもりです。
研究基盤協議会の場を活用して、他機関の取組みや課題等、情報交換させていただき、本学の取組みに役立てたいと考えている。
非常に重要なことだと思うのでぜひ実施してほしい。
事業採択校だけでなく、研究基盤を担う関係組織全体が情報交換する場となることは望ましい。
具体的な運営方針・活動方針などが発表されるのを期待している
上記の事柄に関する各種情報や事例、また、協議会の活動等がリアルタイムに状況が見える体制（ウェブサイトなど）を整備していただけるとありがたいです。@個人的見解
取り組みとしては賛同します。ただ研究基盤協議会の詳細（あるいは概要）について、本事業参画機関にあまり詳しく説明されていないのではないのでしょうか？（昨年シンポジウムではまだ構想段階だったと思います）各機関が学内関係者（特に執行部）に説明しやすいような取り組み資料があるとよいと思います。
様々な立場の方々が参加される組織となることが予想されるので、意見の集約は難しいと思われませんが、一部の参加機関の主張に偏った意見等にならないようなオープンな議論が可能となる組織となることを望みます。